

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード GH2	科名 バッグデザイン科 2年	単位 2単位
科目コード 302520	科目名 バッグハンドワークⅡ	授業期間 前期

担当教員(代表) : 荒閑 史伸

共同担当者 :

【授業概要、到達目標・レベル設定】

手縫いの技法のいくつかを使用し、ビジネスバッグ製作ができるほどのレベルにもっていく。

【授業計画】

テーマ(大・中・小項目)、方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、製作物、テーマ別所要コマ数、他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先

テーマ	方法	コマ数
菱切りの研ぎ方について (2コマ) ・ 研ぎ実習	実習	1~2
全員同じパターンによるペン立ての作製 (6コマ) ・ [すくい縫い]・[駒合わせ縫い]の説明、練習 裁断 縫製		3~8
手縫いの技法、装飾的な手縫いを使用したビジネスバッグ製作 (20コマ) ・ バッグ製作(パターン作製、裁断、すき、下張り、縫製) ・ 仕上げ		9~28

【評価方法】

S~C・F評価 評価基準: 学業評価 50%、授業姿勢 50%

主要教材図書	文化ファッション工芸講座③バッグ
参考図書	なし
その他資料	文化ファッション講座工芸②手芸

授業の特徴と担当教員紹介

実際にモノを作りながら技術を習得していきます。担当教員は文化服装学院卒、現役のバッグ職人です。

記載者氏名 荒閑 史伸

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	GH2	科名	バッグデザイン科 2年	単位	1 単位
科目コード		科目名	量産技術演習	授業期間	(後期)

担当教員(代表) : 玉那霸 孝二	共同担当者 :
-------------------	---------

【授業概要、到達目標・レベル設定】

量産現場の作業工程及び縫製方法によりバッグを制作し、専門知識と技術を習得する。
縫製に適する各種アタッチメントの扱い方を学ぶ。

【授業計画】

バックパック 制作実技

- ・裁断 2コマ
- ・縫製準備（革漉き、コバの始末等） 3コマ
- ・縫製（各種アタッチメント使用） 8コマ
- ・仕上げ・完成 1コマ

【評価方法】

学業評価 80% ・ 授業姿勢 20%

主要教材図書 なし

参考図書

その他資料

授業の特徴と担当教員紹介

1997年文化服装学院 ファッション工芸科卒業
" 株式会社ヤング入社
1999年株式会社ヤング退社
2000年コニー株式会社入社
" 文化服装学院 非常勤講師
2005年コニー株式会社退社
2005年文化服装学院入社（ファッション工芸課程 バッグデザイン科担当）
2012年文化服装学院退社
2012年ARCS078（鞄袋物製造）創業
" 文化服装学院 非常勤講師
2014年コニー株式会社入社（CONY ARCS 配属）
" コニー株式会社取締役部長就任
2020年コニー株式会社取締役常務就任

記載者氏名 玉那霸 孝二

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード GH1	科名 バッグデザイン科 1年	単位	2 単位
科目コード	科目名 ハンディクラフト	授業期間	(通年)

担当教員(代表) : 白戸 薫	共同担当者 :
-----------------	---------

【授業概要、到達目標・レベル設定】

概要 (教育目標・レベル設定など 200 字程度) (職業実践専門課程認定要件に基づきHP上で公開します)
 各種のクラフトテクニックを、エンブロイダリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。
 特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。
 併せて、学習したテクニックをまとめ、ブックの形式で完成させる。
 それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。

【授業計画】

* エンブロイダリー

- ・カラーエンブロイダリー 刺しゅうの中で、代表的な色糸刺しゅうの基本的なステッチの実習 (4.5)
- ・ステッチの応用 ボリュームのあるステッチの実習 より多種多様なステッチの習得 (2)
- ・キャンバスワーク 基本的なステッチを用いながら、織り糸を数えて刺すテクニックの実習 (2.5)
- ・コードエンブロイダリー 紐状のものを布に止め付けていくテクニックの実習 (2)
- ・ビーズ/スパングルエンブロイダリー 服飾素材の扱い方の基本テクニックの実習 (1.5)
- ・ミラーワーク ミラーの止め付け方のテクニックの実習 (0.5)
- ・ビーズ/スパングルエンブロイダリーの応用 オリジナルの図案をデザインしモチーフを制作 (1)

* 布の加工

- ・アップリケ 布を切り貼りするテクニックの実習 (1.5)
- ・スマッキング ベーシックスモッキングのうち柄布(ギンガム)を使ったテクニックの実習 (1.5)
- ・カットワーク 布にステッチをして切り抜き、透かし模様を表現するテクニックの実習 (1.5)
- ・フリル/ギャザー/ヨーヨー ファブリック マニュピュレイティング(布加工)の代表的なテクニックの実習 (1.5)
- ・リボンワーク 幅広いテープ状のものを装飾的に加工するテクニックの実習 (1.5)
- ・ラティススマッキング 布を裏面からつまむことによる陰影の表現のテクニックの実習 (1.5)
- ・キルティング 布を部分的にふくらませて、レリーフ状に加工するテクニックの実習 (2.5)
 イタリアンキルティング/イングリッシュキルティング

* レース

- ・マクラメレース ひもを手で結び模様を表現するテクニックの実習 (2.5)

* 一年間の技法を1冊のファイルにまとめる

- ・技法のまとめ (1)

【評価方法】

制作物の評価にブックの採点をプラス

主要教材図書 文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ 手芸

参考図書

その他資料 各種技法サンプル 講師作成プリント類

授業の特徴と担当教員紹介

ニット企業でのニットデザイナーを経て、フリーでハンディクラフトを生かした作品制作(キッズニット・編みぐるみ・バッグ・ニット帽など小物からインテリアグッズまで)・雑誌等の活動経験をもとに指導。クラフトテクニックをエンブロイダリーと布の加工に大別し、基礎テクニックを幅広く習得する。帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に応用することをイメージしながら実習する授業を実施

記載者氏名 白戸 薫

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード 科目コード	科名 ファッション工芸各科 科目名 現代ファッション論	単位	単位
		授業期間	前期 単位

担当教員(代表) : 関谷麻美

共同担当者 :

【授業概要、到達目標・レベル設定】

現代において国際的に流通している“グラジュアリーブランド”は、流行を牽引するだけでなく、全世代の強い憧れの的である。それらには長い歴史があり、時代の流れを読みながら発展してきたブランドがほとんどだ。さらに21世紀に向けて環境問題と向き合い、“サステナブルファッション”を提案するブランドも数多い。この講座では著名なラグジュアリーブランドの成り立ちと現在の動向、そして未来への展望を掘り下げる。

内容	方法	コマ
「イントロダクション」現代のラグジュアリーブランドとは? +全14回の講義の流れ	講義	1
「パリ=現代の“ラグジュアリーブランド”のはじまり①=シャネル」	講義	2
「パリ=現代の“ラグジュアリーブランド”のはじまり②=ディオール、サンローラン」	講義	3
「パリ=現代の“ラグジュアリーブランド”のはじまり③エルメスとルイ・ヴィトン」	講義	4
「パリ=パリコレクションから世界へ。“ラグジュアリーブランド”の国際化とサスティナビリティ①」	講義	5
「パリ=パリコレクションから世界へ。“ラグジュアリーブランド”の国際化とサスティナビリティ②」	講義	6
「イタリア=レザーの老舗からトータルブランドへ=60年代以降の“メイド・イン・イタリー”の大逆転①」	講義	7
「イタリア=レザーの老舗からトータルブランドへ=60年代以降の“メイド・イン・イタリー”の大逆転②」	講義	8
「イタリア=レザーの老舗からトータルブランドへ=60年代以降の“メイド・イン・イタリー”の大逆転③」	講義	9
「イギリス・ロンドン=バーバリーからヴィヴィアンW、ステラMの地球に優しいファッションまで」	講義	10
「現代ファッションにおいて最も重要なキーワード=“サステナブル”について」	講義	11
「日本・東京=欧米経由で国際的になった日本ブランド 1970年から現代まで」	講義	12
「アメリカ・NY=ブルックス・ブラザーズからラルフ・ローレン、マークJ、マイケルKまで」	講義	13
「パリ・ヴァンドーム広場のハイジュエラー」	講義	14

【評価方法】

出席率・遅刻率、授業への積極的な参加（挙手、質疑応答など）、課題の提出・内容から総合的に判断する。

主要教材図書 毎回の講義にはパワーポイントによる資料をモニターで提示。

参考図書 講義で取り上げたブランドの公式ホームページ。

その他資料 wwd.japan.com

授業の特徴と担当教員紹介

ファッション誌編集者・ジャーナリストとして、常に最先端のラグジュアリーブランドに触れている経験を生かし、スピードに変化してゆくブランドの動向を的確に捉え、解説する。また、現代とこれからのファッション業界で外せないキーワード「サステナブル」についても、隨時、触れながら、時間のあるかぎり詳細を伝えていくように心がける

記載者氏名 関谷麻美